

令和8年6月 地震・火山月報（防災編）

表 令和8年6月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第52～61号	1日、5日、8日、12日、 15日、19日、22日、 26日、29日 30日 16時00分 13時00分	南岳山頂火口で噴火活動継続。7日、8日、 11日、21日に爆発。昭和火口では噴火及び 火映はない。 火山性地震は少ない状態で経過。火山性微 動が時々発生。火山ガス(二酸化硫黄)放出 量は2900[t/日](6/3)、1400[t/日](6/12)と 多いからやや多い。 島内の傾斜計及び伸縮計で、5月30日18時 頃から山体膨張を示す地殻変動を観測して いたが、7日05時頃から開始した南岳山頂 火口の噴火活動で概ね解消。一連の噴火活 動は断続的に7日夜まで継続。9日00時頃 から14日頃にかけて観測されていた山体膨 張を示す地殻変動はその後停滞。29日21時 頃から山体膨張を示す地殻変動を観測。 これが一度に解消されるような噴火が発生 すると、桜島島内を中心に多量の降灰の可 能性がある。 GNSS観測で、始良カルデラ(鹿児島湾奥部) を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の 緩やかな伸びがみられる。 始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状 態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴 火活動が継続すると考えられ、今後の火山 情報に注意。
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第30～33号	5日、12日、19日、26日 16時00分	ボンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は活発 な状態が継続。2025年9月からのボンマチ ネシリ火口方向が緩やかに上がる傾斜変動 は、5月9日頃から火口方向が下がる変化 に転じたが、火口付近浅部は引き続き膨張 した状態と考えられる。5月10日から増加 していたボンマチネシリ火口付近の火山性 地震は、14日以降、減少傾向に転じ、現在 は概ね少ない状態の中で増減を繰り返して いる。 火山活動の活発な状態が継続しており、今 後も噴火が発生する可能性がある。
十勝岳 (次頁へ続く)	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることを留意)	解説情報 第4～6号	1日 11時00分 5日、12日 16時00分	5月31日01時頃から62-2火口付近のごく 浅い所を震源とする火山性地震が増加。火 山性地震の発生回数は、5月31日62回、6 月1日09時まで39回。 6月1日07時までの前24時間で88回とな ったが、その後は概ね少ない状態で経過。火 山性地震増加に伴う、噴煙・噴気の状況や地 殻変動の変化は認められていない。 6月10日に実施した現地調査で、火山ガス (二酸化硫黄)放出量は1400t/日で、多い 状態が継続。62-2火口、振子沢噴気孔群及 びその周辺で噴煙・噴気が多く、ごく微弱な 発光現象が時々みられるなど、活発な熱活 動が継続。 3月以降一部のGNSS基線でわずかな伸び、 62-2火口付近及び周辺で地震活動やや活発 化、火山ガス放出量の増加、振子沢噴気孔群 の噴気域の拡大が認められている。火山活 動は高まる傾向にあり、今後の推移に注意 が必要。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	18日 11時00分	62-2火口及び振子沢噴気孔群付近では、熱 活動のさらなる高まりが認められる。3月 以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地 殻変動、火山ガス(二酸化硫黄)放出量の増 加、62-2火口付近及びその周辺の地震活動 のやや活発化が認められる。 火山活動が高まっており、62-2火口から概 ね1.5kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生 する可能性がある。

令和8年6月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
(前頁の続き)				
十勝岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第7～8号	18日 26日 11時10分 16時00分	62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近では、噴煙・噴気高さの増大、発光現象の多発、振子沢噴気孔群の高温化等、熱活動のさらなる高まりが認められる。16日、17日の現地調査でも熱活動が活発な状態を確認。3月以降、GNSS 観測で山体付近やや深部の膨張を示す基線の伸びが継続。4月以降火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、62-2 火口付近及びその周辺の地震活動のやや活発化が認められる。62-2 火口から概ね1.5kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～26号	5日、12日、19日、26日 16時00分	2024 年2月以降の東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す地殻変動は、2026 年4月初め頃から概ね停滞したが、5月24日頃からひずみ計、傾斜計で山体膨張を示すと考えられる地殻変動を観測、6月10日頃から再度停滞の可能性。「だいち2号」、「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院のSAR干渉解析では、2025 年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られない。 山頂付近の火山性地震は6月3日以降増加。5月28日以降増加していた黒倉山付近の火山性地震は、6月13日以降減少傾向。5月下旬以降、再び活発化している火山活動は、黒倉山付近の地震活動が減少しているものの継続。西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2km 範囲に影響する噴火の可能性はある。
阿蘇山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報(臨時) 第1号	21日 09時50分	21 日08 時55 分頃から火山性微動の振幅増大、中岳西山腹観測点南北動成分の1 分間平均振幅2.5 μ m/秒程度で経過。 監視カメラでは、天候により状況不明。 今後の火山活動に関する情報に注意。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	21日 16時00分	21 日09 時頃から火山性微動の振幅増大、中岳西山腹地震計の南北動成分で1 分間平均振幅が1.5 μ m/秒程度を超えた状態が1 時間以上継続。現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）放出量が1700t/日と、やや多い状態。火山活動が高まっており、中岳第一火口から概ね1km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
		解説情報 第2～4号	21日 22日、26日 16時10分 16時00分	火山性微動の振幅が21 日09 時頃から増大、中岳西山腹地震計の南北動成分の1 分間平均振幅が1.5 μ m/秒程度を超える状態が3 時間程度継続。22 日01 時50 分頃に一時的に3.0 μ m/秒程度まで増大したが、その後は1.0 μ m/秒を下回る状態で経過。 21 日の気象庁機動調査班（JMA-MOT）による現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）放出量は、1700t/日で前回（16 日900t/日）から増加。監視カメラにより、22 日01 時54 分頃に火口内で土砂噴出を確認。同日04 時から05 時頃にもより小規模な土砂噴出を確認したが、その後はなし。阿蘇火山博物館の火口カメラで22 日から24 日の夜間に南側火口壁で赤熱を確認（2024 年7 月12 日以来）。地殻変動の状況に特段の変化なし。 火山性微動の振幅増大、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加など火山活動に高まりが認められる。 中岳第一火口から概ね1km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。

令和8年6月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～26号	5日、12日、19日、26日 16時00分	2025年9月8日以降噴火はない。11日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、100t/日とやや多い状態。火口直下の火山性地震は少ない状態で経過。13日08時40分に振幅の小さい微動を観測（3月6日以来）。GNSS観測で霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から深部の膨張を示すわずかな伸びが認められたが、同年12月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは2025年7月以降認められない。火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第24～27号	5日、12日、19日、26日 16時00分	硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。GNSS観測の島内の一部の基線で、2026年2月頃から薩摩硫黄島と竹島間の膨張に対応すると考えられる変化を観測していたが、4月頃から停滞。長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～26号	5日、12日、19日、26日 16時00分	御岳火口で時々噴火発生。爆発なし。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動は時々発生。GNSS連続観測で、2024年10月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増加を示唆する地殻変動が認められていたが、2025年11月頃から停滞。長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口周辺では、大きな噴石飛散の可能性はある。
浅間山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第44号	5日 16時00分	5月24日頃から増加した微小地震を含む高周波地震は、31日頃から減少。地殻変動、噴煙も特段の変化は認められない。活火山であることに留意し、登山の際は最新の火山情報を確認してください。
口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第3～5号	4日、8日、15日 16時00分	5月29日から古岳付近の浅いところを震源とする火山性地震が増加したが、9日頃から減少傾向。前10日間の地震回数は、4日、8日、15日（15時まで）で67回、60回、44回。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、100t/日を下回り、少ない状態で経過。遠望観測、地殻変動観測では、変化なし。5月28日から30日、6月11日及び12日の現地調査では、噴煙の状況や地熱域の状況に変化なし。火山活動に活発化の兆候は認められないが、5月3日以降、古岳付近を中心に火山性地震が増減を繰り返しながらやや多い状態で推移。今後の情報に留意してください。

注1）表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2）雌阿寒岳、岩手山、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。阿蘇山は21日17時に開始した。